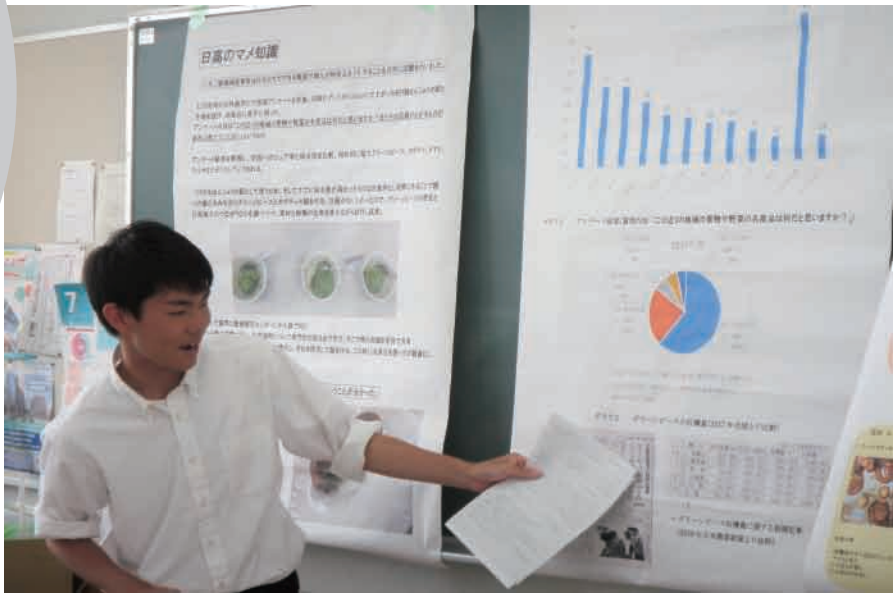
和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第7号
2020年7月20日

課題研究成果発表会（３）
～課題研究をすすめる中で自分の成長を感じたこと～



多角的に思考する

いろんな視点から物事を考えられるようになった

３年５組　中野 愛花

地域防災分野「乗客の命を守る安全のしおり」

授業では、ぱっと配られた紙を先生や他の人にわかりやすく説明する活動があり、適応力がアップした。また、簡潔に説明しなければならないこともあり、まとめる力がついた。

ＪＲの避難案内を改善するにあたって、外国人観光客や障がい者の立場を考え、追究していったので、以前に比べ、広い視点から物事を考えられるようになった。

一つの課題に対して様々なアプローチで考えるようになった

３年６組　濱田 佳凜

地域サイエンス分野「高２の夏、粘菌生活」

今までの私は、１つの課題に対して１通りのアプローチをするだけで終わり、すぐ諦めてしまう傾向がありました。しかし、粘菌についての実験をしていく中で、班員の意見を聞き、自分とは違う考え方に接することによって、自分でも複数のアプローチで考えることができる力がついたと思います。

また、粘菌観察をした写真を見やすいようにまとめる作業を担当する中で、先生や友達に教えてもらうことで、一人でまとめる力もつきました。

実地調査の大切さ

コミュニケーション力がついた

３年１組　北岡 萌

地域文化分野

「熊野古道の人気の秘密」

はじめは、自分がこの課題について浅い知恵しか持ち合わせていなかったから、はっきりとした意見が出せなかった。しかし、アンケートを採りに行ったり、歴史を聞いたりしているうちに知識が増え、考える土台ができてきた。

また、アンケート調査の中で、外国人の意見の傾向や、そのコミュニケーションの取り方を学び、自信を持って発言できるようになった。

実際に現地に行くことで、話しかける機会があり、そこで外国人の方に対するコミュニケーション力もつけられたと感じた。

現場の人の声の大切さ

３年１組　清村 桃菜

移民難民分野

「移民に対する関心を高めるには」

自分たちの足で、直接、外国人留学生の方や外国人労働者の移民の方々に話をうかがいに行くことにより、移民の人のイメージが大きく変わった。その経験から、自分たちの中にもまだ偏見があったということにも気づけたし、自分の中のイメージが１８０度近く変わったことも感じた。

実際に自分たちの目で見たり、聞いたりすることがとても大切だということを経験した。

知識・関心

関心の幅の拡大

３年５組　小野 まや

移民難民分野

「外国人労働者との共存をめざす」

最初はこの課題に対してあまり興味が持てなかったし、よく分からないことが多かったけれど、調べていくうちに、どんどん理解が深まって自分の意見を言えるようになってきた。

また、自分自身、移民や難民についてのイメージが、とても良い方向に変わってきたことにも気づいた。

加えて、ニュースで「移民」という見出しを見ると記事を読むようになったことに、以前とは異なる自分自信の変化を感じている。